

ネットワークアンケート ③0

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 通院する患者さんへ、糖尿病の自己管理について十分な指導を行っていますか？

“糖尿病はコントロールする病気”と言われますが、患者さん自身による自己管理は大変重要です。その意味で、患者さんへ自己管理の大切さを伝え、どのように実行するかを指導していくことは医療スタッフの大きな役割でもあると言えます。今回は、自己管理の指導と実践について伺いました。

[回答数：医療スタッフ48名(医師11、看護師19、准看護師1、管理栄養士10、薬剤師4、その他3。うち健康運動指導士2、日本糖尿病療養指導士23)、患者さんやその家族336名(病態/1型糖尿病123、2型糖尿病199、糖尿病境界型8、その他6、治療内容/食事療法271、運動療法227、飲み薬の服用166、インスリン療法 198/重複回答有)]

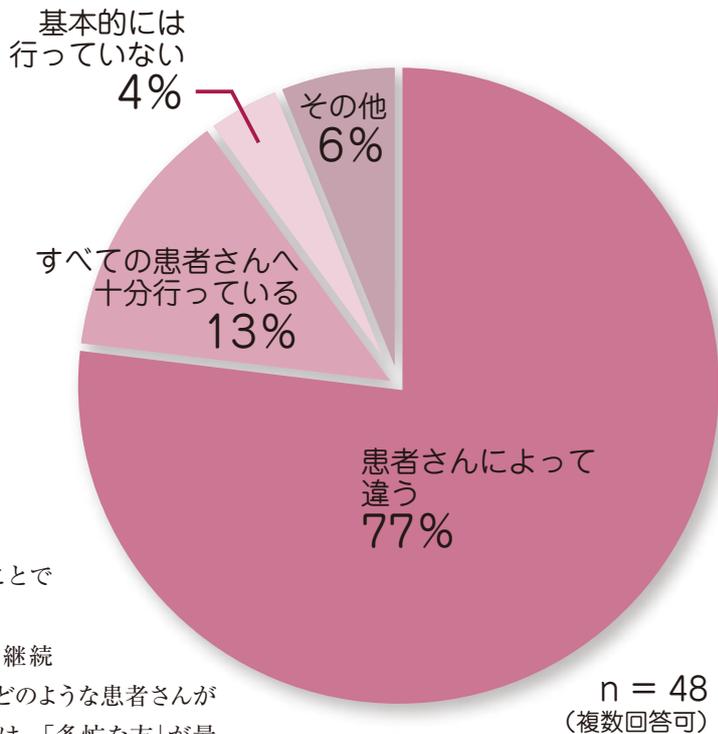
「すべての患者さんへ十分行っている」とした方は13%、「患者さんによって違う」が77%の回答でした。継続的に実行する自己管理として、どのようなことを行うよう指導しているか?については、「血糖値」と「体重」が84%で最も多く、「血圧値」82%、「食事内容の記録」76%、「歩数チェック」63%、「服薬記録」55%と続きました。

糖尿病の自己管理を“記録”するために利用しているツールとしては、「糖尿病連携手帳や自己管理ノート」が92%、「企業などが配布する患者指導用資材」が44%、「医療機関独自のグラフ」などが21%。8割が「記録して、毎回の受診時に持参するよう

指導している」とのことでした。

また、自己管理を継続的に行えないのは、どのような患者さんが多いかという質問では、「多忙な方」が最も多く83%、「1人暮らしの方」、「高齢の方」が58%と続きました。逆に、「糖尿病歴の短い方」、「インスリン療法を行っている方」、「薬物療法を行っている方」は、継続的に実施できている方が多いと言えるかもしれません。

自由記述では、「多忙を理由に継続的な管理ができない患者が増えている。」「継続的な自己管理が行えている方の多く



は、医療スタッフとの関係が良好な方が多いように思う」、「最近PCを使って自分で自己管理表を作成されている方も多い」、「うまく糖尿病と付き合っており、血糖コントロールが良好な患者さんは、人知れず努力しているのを療養指導の中で実感する」病院側が「管理・治療」している間は本当の意味で自己管理できているとは言えないのでは?」といった意見などがありました。

Q. 自己管理を継続的に行えないのは、どのような患者さんに多いとお感じになりますか？

(複数回答可 n=48)

仕事などで、多忙な方 83%
一人暮らしの方 58%
高齢の方 58%
血糖コントロールがうまくいっていない方 54%
経済的に余裕がない方 44%
血糖自己測定を行っていない方 29%
糖尿病歴の長い方 25%

食事・運動療法のみの方 21%
比較的若い方 21%
インスリン療法を行っていない方 17%
薬物療法を行っている方 13%
インスリン療法を行っている方 6%
糖尿病歴の短い方 4%

Q. どのようなツールを利用するよう指導していますか？

(複数回答可 n=48)

糖尿病連携手帳や自己管理ノートなど 92%
製薬企業などが配布する管理手帳やグラフ表など 44%
貴院独自で制作した管理手帳、グラフ表など 21%
ご自身の手帳、日記など 19%
とくに指導していない 4%
その他 48%